

## 種痘を成功させた榎林宗建

清水 勝

目下コロナ禍で厳しい状況が続いているが、江戸末期は天然痘が大流行していた。

その予防接種である種痘（牛痘法）を発明したのは有名なジェンナーである。1798年に発表され世界中に普及し、日本でもオランダ商館を通じてその存在が知られていた。その具体的な方法は1823年に来日したオランダ商館医師シーボルトによって、多くの蘭方医に教えられた。

問題はシーボルトが持参した牛痘苗ではうまくいかず、その後も取り寄せてはみたが、日本までの二十日以上に及ぶ航海で痘苗（うみ）が腐敗し、病毒（ウイルス）が弱り接種が失敗する状況が続いた。

1846年佐賀藩で天然痘が大流行した。佐賀藩主鍋島直正はオランダ商館の出入り医師であった藩医榎林宗建に牛痘苗を入手するよう命じた。

腐敗しない牛痘苗を入手すべく、オランダ商館長に依頼し、1848年商館医として赴任するモーニッケがバタビア（現ジャカルタ）から牛痘苗を持参した。近くからとはいえ牛痘苗は腐敗により失敗。

そこで榎林宗建は従来行われていた人の痘痂（かさぶた）による人

痘法（中国伝来を秋月藩緒方春策が成功…但しリスクが高い）を参考に、牛痘苗ではなくて牛痘痂の活用を提案し、翌年に良好な牛痘痂をバタビアから入手した。モーニッケの指導の下、三人の乳児に種痘を行なった。うち一人に水泡が現れ、我が国で最初の牛痘法による接種が成功した。その乳児は誰であろう、宗建の息子であった。

藩主鍋島直正は領民がワクチン接種を恐れないよう、最初に我が子淳一郎に接種した。こうして佐賀藩では急速に種痘が広まった。

牛痘苗を入手するのは困難であり、そこで考えられたのは種痘の効果が現れ免疫の生じた子どもから種を取り、牛痘苗を植え継いでいくという人伝牛痘苗が全国に広まっていった。

なお、種痘の普及には多くの医師が貢献した。

- ・小山肆成・笠原良策・伊東玄朴・日野鼎哉・緒方洪庵
- ・横地元丈・桑田立斎・柴田方庵・長与俊達 等々

### 【参考】既述の「幕末・維新の知られざる人物」

- ①二君に仕えず　く栗本鋤雲の生き方く
- ②新門辰五郎と娘　お芳　く徳川慶喜との繋がりく
- ③高杉晋作を支援した白石正一郎
- ④高杉晋作への恨み　く倉田千弥く
- ⑤月形町　く初代典獄 月形潔く
- ⑥明治初期の女子留学生　く津田梅子らく
- ⑦トミーと呼ばれたサムライ　く立石斧次郎く
- ⑧シーボルトの娘　イネ
- ⑨横山安武の諫死(かんし)